

Sun Java™ System Message Queue リリースノート (Microsoft Windows 版)

バージョン 3 2005Q4 (3.6 SP3)

Part No. 819-5854

このリリースノートには、Sun Java System Message Queue 3 2005Q4 (Microsoft Windows 版) のリリース時点で得られる重要な情報が含まれています。既知の問題点と制限事項、およびその他の情報が説明されています。Message Queue を使用する前に、このドキュメントをよくお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4#hic> の Sun Java System マニュアル Web サイトで参照できます。ソフトウェアのインストールおよび設定前だけでなく、以後も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新版のリリースノートやマニュアルをご覧ください。

このリリースノートには次の節があります。

- [リリースノートの改訂履歴](#)
- [Message Queue 3 2005Q4 \(3.6 SP3\) について](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題および制約](#)
- [再配布可能ファイル](#)
- [問題の報告方法とフィードバックの提供方法](#)
- [Sun の追加情報](#)

このマニュアルには、その他の関連情報の参照先としてサードパーティーの URL が記載されています。

注

Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティーの Web サイトが利用可能かどうかについて責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料について Sun は保証するものではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、Sun は直接的にも間接的にも、一切の責任を負いません。

リリースノートの改訂履歴

表 1 改訂履歴

日付	変更内容の説明
2006年2月	商用リリース。
2005年11月	ベータリリース。

Message Queue 3 2005Q4 (3.6 SP3) について

Sun Java System Message Queue は、多くの機能を備えるメッセージサービスで、Java Messaging Specification (JMS) 1.1 に準拠する信頼性の高い非同期メッセージングを提供します。Message Queue では、JMS 仕様を超える機能も用意され大規模企業のシステム配備のニーズにも対応できるようになっています。

Message Queue 3 2005Q4 での新機能

Message Queue 3.6 SP3 2005Q4 (3.6) に含まれる新機能は次のとおりです。

- [デッド Message Queue](#)
- [非通知モード](#)
- [クライアントメッセージ本文の圧縮](#)
- [接続の失敗の検出 \(クライアントランタイムの Ping\)](#)
- [C-API 基本認証のサポート](#)
- [ハードウェアおよびソフトウェア要件](#)

以降の節で、これらの機能について説明しています。

デッド Message Queue

Message Queue は、ブローカ起動時に、診断目的のデッドメッセージを格納する専用の送信先を自動的に作成します。デッドメッセージとは、通常の処理または明示的な管理者のアクション以外の理由でシステムから削除されたメッセージです。期限切れ、メモリー容量超過による送信先からの削除、または配信の失敗のために、メッセージはデッド (死んでいる) とみなされます。

管理者は送信先として、デッドメッセージを破棄するか、デッドメッセージのキューに配置するかのどちらかを設定できます。デッドメッセージキューに配置されると、追加のプロパティ情報がメッセージに書き込まれるため、管理者はデッドメッセージとなった原因についての情報を得ることができません。クライアント開発者は、メッセージを作成する際に、デッドメッセージとなった場合にメッセージをデッドメッセージのキューに配置するかどうかを決定するプロパティ値を設定することもできます。

詳細は、『Message Queue 管理ガイド』を参照してください。

非通知モード

NO_ACKNOWLEDGE 通知モードは、JMS API の拡張機能です。通常、ブローカはクライアント通知を待ちます。この通知は、クライアントが CLIENT_ACKNOWLEDGE を指定した場合は、プログラムにより作成する必要があります。また、クライアントが AUTO_ACKNOWLEDGE または DUPS_OK を指定した場合には、セッションにより自動的に作成されます。消費側クライアントが NO_ACKNOWLEDGE モードを指定した場合は、ブローカはメッセージを消費側クライアントに送信したあとすぐにメッセージを破棄します。この機能は、非持続メッセージを消費する永続的でないサブスクライバが使用するもののようですが、ほかのコンシューマも使用できます。

この機能を使用すると、メッセージの通知に関連するプロトコルトラフィックおよびブローカの動作が削減され、パフォーマンスが向上します。メッセージを通知しない誤った動作をするクライアントを処理するブローカについても、パフォーマンスが向上し、ブローカの不要なメモリーリソースを抑制できます。このモードの使用によるプロデューサへの影響はありません。

C クライアントでは、NO_ACKNOWLEDGE モードはサポートされません。詳細は、『Message Queue Developer's Guide for Java Clients』を参照してください。

クライアントメッセージ本文の圧縮

開発者は、メッセージ本文を圧縮できるように指定できます。メッセージの圧縮および圧縮解除はすべてクライアントランタイムにより処理され、ブローカには影響しません。このため、アプリケーションは、以前のバージョンのブローカでもこの機能を使用できますが、バージョン 3.6 SP3 2005Q4 (3.6) の Message Queue クライアントのランタイムライブラリを使用する必要があります。

圧縮の利点と制限

メッセージの圧縮は、パフォーマンス向上のために追加されましたが、実現の程度は保証されるものではありません。パフォーマンス向上の程度は、メッセージのサイズおよびフォーマット、コンシューマの数、ネットワーク帯域幅、および CPU パフォーマンスによって異なります。たとえば、圧縮および圧縮解除のコストが、圧縮されたメッセージの送受信によって節約された時間を上回ることがあります。この現象は、高速ネットワークで小さいメッセージを送信する場合に顕著です。一方、大きいメッセージを多くのコンシューマに発行する、または低速ネットワーク環境で発行するアプリケーションでは、メッセージの圧縮によりシステムパフォーマンスが改善されることがあります。

バージョン 3.6 SP3 2005Q4 (3.6) より前のクライアントのランタイムライブラリで配備されるメッセージコンシューマでは、圧縮メッセージを処理できません。圧縮メッセージを送信するよう設定されたクライアントは、コンシューマの互換性を確認する必要があります。現在、C クライアントでは、圧縮メッセージを消費できません。

詳細は、『Message Queue Developer's Guide for Java Clients』を参照してください。

接続の失敗の検出 (クライアントランタイムの Ping)

Message Queue 3.6 SP3 2005Q4 では、`imgPingInterval` という名前の新しい `ConnectionFactory` 属性が導入されています。`imgPingInterval` 属性は、クライアントランタイムからブローカーへの Ping の発行の頻度を指定します。接続を定期的を確認することで、クライアントランタイムは、失敗した接続を早期に検出できます。Ping の発行に失敗した場合、クライアントランタイムは、アプリケーションの例外リスナーオブジェクトに例外をスローします。アプリケーションに例外リスナーがない場合は、アプリケーションによるその接続の次の試行は失敗します。

詳細は、『Message Queue 管理ガイド』を参照してください。

証明書の管理 : C-API NSS ツール

C-API は、Network Security Service (NSS) ライブラリを使用して SSL をサポートします。このライブラリには、セキュリティー保護されたアプリケーションを開発するための、API およびユーティリティーがあります。ユーティリティーには、鍵および証明書データベースを管理するためのツールが含まれます。Message Queue 3.5 では、Mozilla を使用した NSS の鍵および証明書の管理が要求されていました。Message Queue 3.6 SP3 2005Q4 では、管理者は NSS の `certutil` ツールを使用して、必要な鍵および証明書を生成できます。

詳細は、『Message Queue Developer's Guide for C Clients』を参照してください。

C-API 基本認証のサポート

Message Queue 3.6 SP3 2005Q4 の C-API は、基本認証タイプをサポートします。Message Queue の以前のリリースは、基本認証タイプをサポートしていませんでした。

64 ビット C-API のサポート

現在、Message Queue は、Solaris/SPARC プラットフォームでの 64 ビット C-API をサポートしています。64 ビット C-API の有効化についての詳細は、『Message Queue Developer's Guide for C Clients』を参照してください。

ハードウェアおよびソフトウェア要件

この節では、このリリースの Message Queue のハードウェア要件およびソフトウェア要件を明示し、説明します。

次の表は、Windows オペレーティングシステムの場合のハードウェアおよびソフトウェア要件の一覧です。

表 2 ハードウェアおよびソフトウェア要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
オペレーティングシステム	Windows 2000 Advanced Server, SP4 以上 Windows XP Professional Edition SP2 Windows 2003 Enterprise Server
CPU	x86
RAM	256M バイト
ディスク容量	100M バイト

Message Queue 3.6 SP3 は、次の表に示すようなテクノロジーにも依存します。次の表は、Message Queue クライアントの開発および実行のためにインストールが必要な基本コンポーネントの一覧および説明です。

表 3 Message Queue 3.6 SP3 の基本的な製品サポートマトリックス

プラットフォーム / 製品	使用目的	サポートされるプラットフォーム / 製品バージョン
Java Runtime Environment (JRE)	Message Queue ブローカ (メッセージサーバー) および Message Queue 管理ツール	Java Runtime Environment 1.4.2_05 Java 2 Platform, Standard Edition, 5.0 (1.5.0.04)
Java Software Development Kit (JDK), Standard Edition	Java クライアントの開発および配備 (Java SOAP/JAXM クライアントは、JDK 1.4.2 および 1.5 についてのみサポート)	JDK 1.4.2_05 Java 2 Platform, Standard Edition, 5.0 (1.5.0.04)

次の表は、Message Queue クライアントを追加でサポートするためにインストールできるコンポーネントの一覧と説明です。リストに表示されたすべてのコンポーネントが必要とは限りません。たとえば、C クライアントを Message Queue に書き込まない場合、C クライアントのサポートに必要とされているコンポーネントはどれも必要ありません。

表 4 Message Queue 3.6 SP3 のオプションの製品サポートマトリックス

製品	使用目的	サポートされる製品バージョン
LDAP ディレクトリサーバー	Message Queue ユーザリポジトリおよび管理対象オブジェクトサポート	Sun Java System Directory Server Version 5.2 SP 3
Web サーバー	HTTP および HTTPS サポート	Sun Java System Web Server, Enterprise Edition Version 6.1 SP 4
アプリケーションサーバー	HTTP および HTTPS サポート	Sun Java System Application Server, Enterprise Edition 8.1
データベース	プラグイン持続性サポート	PointBase, Version 4.8 Oracle 9i, Version 9.2
JNDI (Java Naming and Directory Interface)	管理対象オブジェクトサポート	<ul style="list-style-type: none"> • JNDI Version 1.2.1 • LDAP Service Provider Version 1.2.2 • File System Service Provider Version 1.2 (開発およびテスト向けであり、本稼動環境での配備向けにはサポートされない)
C 言語のコンパイラ および 同等の C++ ランタイムライブラリ	Message Queue C クライアントサポート	<ul style="list-style-type: none"> • Windows の場合 : Microsoft Windows Visual C++ 6.0, SP3
NSPR (Netscape Portable Runtime)	Message Queue C クライアントサポート	Sun Java Enterprise System 2005Q1 にバンドルされるバージョン。
NSS (Network Security Service)	Message Queue C クライアントサポート	Sun Java Enterprise System 2005Q1 にバンドルされるバージョン

このリリースで修正されたバグ

表 5 Message Queue 3.6 SP3 2005Q4 で修正されたバグ

バグ ID	説明
6284053	MQ のインストール時に CLASSPATH 環境変数が不必要に設定されます

重要な情報

この節で説明する項目は次のとおりです。

- [インストールの注意点](#)
- [Message Queue の次回のメジャーリリースに関する問題](#)
- [互換性の問題](#)
- [Message Queue に関するマニュアルの更新](#)
- [障害者のためのアクセシビリティ機能](#)

インストールの注意点

パッチの要件とインストールについては、次の節を参照してください。

パッチの要件についての情報

次の表に、整合パッチの番号と最低バージョンを示します。ここに示されているパッチはすべて、アップグレードで必要とされる最低バージョンです。このリリースノートの出版後に新しいバージョンのパッチが発行されている可能性もあります。新しいバージョンには、パッチの末尾に異なるバージョン番号が表記してあります。たとえば、123456-04 は 123456-02 より新しいバージョンですが、パッチ ID は同じです。各パッチに固有の手順については、README ファイルを参照してください。

パッチを入手するには、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスしてください。

表 6 Windows に必要な Message Queue 3.6 SP3 2005Q4 整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
121523-01	Windows (MSI): 共有コンポーネント
121533-01	Windows (MSI): Sun Java™ System Message Queue 3.6 SP3 2005Q4

Message Queue を JES3 から JES4 にアップグレードする手順については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4461> にある『Sun Java Enterprise System 2005Q4 Upgrade Guide for Microsoft Windows』を参照してください。

Message Queue の次回のメジャーリリースに関する問題

Message Queue の次回のメジャーリリースでは、クライアントとこのリリースとの互換性がなくなるような変更が導入される可能性があります。この情報は、このような変更に合わせていただく目的で今回提供しています。

- このリリースは、Sun One Message Queue 3.0.1 と下位互換性のある Sun Java System Message Queue の最後の機能リリースになります。特に、Sun Java System Message Queue の今後のリリースでは、次のサポートがなくなります。
 - 3.0.1 クライアントから、最新バージョンのブローカへの接続
 - 3.0.1 持続ストアの最新バージョンへのアップグレード
 - 3.0.1 ブローカと最新バージョンのブローカとのクラスタ
 - 最新バージョンのブローカと、3.0.1 プロパティファイル、ユーザーストア、アクセス制御リストなどの使用
- このリリースは、Sun Java System Application Server 7.X の「システム JMS メッセージングプロバイダ」としての統合をサポートする最後の Sun Java System Message Queue のリリースになります。Sun Java System Message Queue の今後のリリースでは、Sun Java System Application Server 8.0 以上のみをサポートします。
- このリリースは、SOAP ランタイムを含み、Message Queue SOAP 管理対象オブジェクトをサポートする最後の Sun Java System Message Queue のリリースになります。
- 今後のリリースでは、SOAP をサポートする Java 2 Standard Edition Platform のバージョンとの連携でのみ、SOAP をサポートします。
- J2SE 1.3 のすべてのリリースについて、Sun Java System Message Queue クライアントによるサポートが中止されます。J2SE 1.4 のサポートは継続されます。
- Sun Java System Message Queue の一部としてインストールされる各ファイルの場所が変更される可能性があります。これによって、特定の Message Queue ファイルの現在の場所に依存する既存のアプリケーションの動作が中断する可能性があります。
- 次回のメジャーバージョン以前の Message Queue のバージョンを使用する Sun Java System Message Queue クライアントは、製品のそのバージョンで提供される新機能にはアクセスできない可能性があります。

互換性の問題

この節では、Message Queue 3 2005Q1 (3.6) の互換性の問題を説明しています。

Message Queue 3 2005Q1 (3.6) の問題

Windows プラットフォームに影響する問題は次のとおりです。

推奨されないパスワードオプション

次のオプションは、セキュリティ上の理由から推奨されていません。

- -p
- -password
- -dbpassword
- -ldappassword

次のように、パスワードをコマンドの一部として指定することも推奨されません。

```
imqcmd query bkr -u admin -p adminpassword
```

このように指定すると、コンピュータのプロセスの一覧表示や照会によって、管理者のパスワードがユーザーに見られてしまいます。代わりに、-passfile オプションを使用します。passfile オプションについては、『Message Queue 管理ガイド』のセキュリティの章で説明しています。

Message Queue に関するマニュアルの更新

次の節では、Message Queue 3 2005Q1 (3.6) および Message Queue 3 2005Q4 (3.6 SP2) に関するマニュアルの更新について説明しています。

- Message Queue 3 2005Q1 (3.6) に関するマニュアルの更新
- Message Queue 3 2005Q4 (3.6 SP2) Beta に関するマニュアルの更新

Message Queue 3 2005Q1 (3.6) に関するマニュアルの更新

次の Message Queue マニュアルは、この製品のバージョン 3.5 から更新されました。

『Installation Guide』

『Message Queue Installation Guide』は更新され、ブランド名の変更やプラットフォーム固有の情報が反映されています。このマニュアルには、Message Queue, Platform Edition に関するインストール情報も含まれるようになりました。

Message Queue, Enterprise Edition のインストール情報は、『Sun Java System インストールガイド』に移動されました。

Message Queue 3.6 SP3 2005Q4 (3.6), Enterprise Edition のアップグレードおよび移行については、『Sun Java System アップグレードと移行』を参照してください。

『技術の概要』

『Message Queue 技術の概要』は、Message Queue 3 2005Q1 (3.6) リリースで導入された新しいマニュアルです。これは、Message Queue 3 2005Q4 (3.6 SP3) リリース向けに書き直されています。このマニュアルでは、Message Queue 製品とその機能、アーキテクチャー、テクノロジー、および用語について説明しています。この新しいマニュアルには、従来はほかのマニュアルに記載されていた概要情報が含まれており、管理者および開発者の両方の Message Queue ユーザー、および今後ユーザーになる人を対象としています。

『管理ガイド』

『Message Queue 管理ガイド』は更新され、ブランド名の変更や新機能が反映されています。このマニュアルは、Message Queue 管理者が使いやすいように、構成も変更されています。従来このマニュアルに含まれていた概要情報は、『Message Queue 技術の概要』に移動されました。

『Message Queue Developer's Guide for Java Clients』

『Java Client Developer's Guide』は更新され、ブランド名の変更や新機能が反映されています。マニュアルのタイトルも『Message Queue Developer's Guide for Java Clients』に変更されています。

『Message Queue Developer's Guide for Java Clients』は、Message Queue Java クライアントの開発者が使いやすいように、構成が変更されています。従来このマニュアルに含まれていた概要情報は、『Message Queue 技術の概要』に移動されました。

『C Client Developer's Guide』

『C Client Developer's Guide』は更新され、ブランド名の変更や新機能が反映されています。マニュアルのタイトルも『Message Queue Developer's Guide for C Clients』に変更されています。

『Message Queue Developer's Guide for C Clients』は、Message Queue C クライアントの開発者が使いやすいように、構成が変更されています。従来このマニュアルに含まれていた概要情報は、『Message Queue 技術の概要』に移動されました。

Message Queue 3 2005Q4 (3.6 SP3) Beta に関するマニュアルの更新

Message Queue 3 2005Q4 (3.6 SP2) Beta はベータリリースであるため、<http://docs.sun.com/coll/1307.1> にあるベータマニュアルコレクションには、この製品のバージョン 3 2005Q1 (3.6) から更新されたマニュアルのみが含まれています。以前のリリースからの変更がないマニュアルについては、http://docs.sun.com/app/docs/coll/MessageQueue_2005Q1 にあるバージョン 3 2005Q1 (3.6) マニュアルコレクションを参照してください。

次の Message Queue マニュアルは、この製品のバージョン 3 2005Q1 (3.6) から更新されました。

『技術の概要』

『Message Queue 技術の概要』は、Message Queue 3 2005Q1 (3.6) リリースで導入された新しいマニュアルです。これは、Message Queue 3 2005Q4 (3.6 SP2) リリース向けに書き直されています。このマニュアルでは、Message Queue 製品とその機能、アーキテクチャー、テクノロジー、および用語について説明しています。この新しいマニュアルには、従来はほかのマニュアルに記載されていた概要情報が含まれており、管理者および開発者の両方の Message Queue ユーザー、および今後ユーザーになる人を対象としています。

『管理ガイド』

『Message Queue 管理ガイド』は、Message Queue 管理者が使いやすいように、構成が変更されています。従来このマニュアルに含まれていた概要情報は、『Message Queue 技術の概要』に移動されました。

『Message Queue Developer's Guide for Java Clients』

『Message Queue Developer's Guide for Java Clients』には、新しい章「Using the Java API」が含まれています。

障害者のためのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を入手するには、Sun に米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。更新バージョンのアプリケーションは、

<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。

アクセシビリティに対する Sun のコミットメントについては、<http://sun.com/access> を参照してください。

既知の問題および制約

この節では、Message Queue 3 2005Q4 (Microsoft Windows 版) の既知の問題と制約について説明します。コンポーネントに関する次のトピックが記載されています。

- [一般的な問題](#)
- [管理および設定上の問題](#)
- [ブローカの問題](#)
- [インストールの問題](#)
- [SSL](#)

現時点のバグ、その状態、および回避策の一覧については、Java Developer Connection™ メンバーは、Java Developer Connection Web サイトの「Bug Parade」ページを参照してください。新しいバグを報告する前に、このページをチェックしてください。すべての Message Queue バグがリストされているわけではありませんが、このページはある問題が報告済みかどうかを知りたい場合に活用できます。

関連ページは次のとおりです。

<http://developer.java.sun.com/developer/bugParade>

注 Java Developer Connection のメンバーになるのは無料ですが、登録が必要です。Java Developer Connection のメンバーになる方法についての詳細は、Sun の「For Developers」Web ページを参照してください。

新しいバグの報告や機能に関する要求を行うには、imq-feedback@sun.com 宛てにメールを送信してください。

一般的な問題

この節では、Message Queue 3 2005Q1 の一般的な問題を説明しています。ここでは、Message Queue の Enterprise Edition に関連する問題を集めてあります。

Enterprise Edition および Platform Edition

- Message Queue 3 2005Q1 では、LDAP サーバーをユーザーリポジトリとして使用するためのブローカ設定の例が、`config.properties` ファイルのコメント領域に用意されており、`default.properties` ファイルにある LDAP ユーザーリポジトリの例はコメントアウトされています。

従来、`default.properties` ファイルにある、LDAP ユーザーリポジトリプロパティ設定例のプロパティ値に依存していた場合、JMS アプリケーションクライアントは、JMS 接続を作成しようとするとセキュリティの例外を受け取ります。これは、Message Queue 3 2005Q1 へのアップグレード後に発生します。

JMS クライアントが Message Queue 3 2005Q1 ブローカへの接続を作成しようとすると、ブローカログでエラーとなり、JMS クライアントは次の例外を受け取ります。

`SecurityException`.

```
20/Aug/2004:11:16:41 PDT] ERROR [B4064]: Ldap repository ldap property .uidattr not
defined for authentication type basic:com.sun.messaging.jmq.auth.LoginException:
[B4064]: Ldap repository ldap property .uidattr not defined for authentication type
basic
```

回避策

『Message Queue 管理ガイド』の指示に従い、ブローカプロパティ `imq.user_repository.ldap.uidattr` を設定します。

- スレッドを起動する前に、`MQCreateConnection` を呼び出すことにより、Message Queue ブローカへの接続を作成します。ブローカのインスタンス設定ファイルを編集するには、ブローカインスタンスを少なくとも 1 回起動する必要があります。そのブローカインスタンスがはじめて起動されるまでは、`config.properties` ファイルが存在しないからです。プラグイン可能な持続性を使用するか、ほかの設定プロパティを設定するようにブローカを設定するには、ブローカ作成に使用するインスタンス名でブローカを一度実行して `config.properties` ファイルを作成します。

プラットフォーム 場所

Solaris	<code>/var/imq/instances/instanceName/props/config.properties</code>
Linux	<code>/var/opt/sun/mq/instances/instanceName/props/config.properties</code>
Windows	<code>IMQ_VARHOME¥instances¥instanceName¥props¥config.properties</code>

`config.properties` ファイルが作成されたら、このファイルを編集して設定プロパティ値を追加してから、ブローカを再起動します。

Enterprise Edition のみ

- このリリースでは、フル接続のブローカクラスタのみサポートされています。つまり、クラスタ内のすべてのブローカは、そのクラスタ内のほかのブローカと相互に直接やり取りする必要があります。 `imqbrokerd -cluster` コマンド行引数を使用してブローカを接続する場合は、そのクラスタ内のすべてのブローカが含まれていることを確認してください。

- クラスタの一部であるブローカに接続されているクライアントは、現在 `QueueBrowser` を使用して該当するクラスタ内のリモートブローカにあるキューを検索することはできません。クライアントが検索できるのは、直接接続されているブローカにあるキューの内容のみです。この場合でも、クライアントは、クラスタ内の任意のブローカに対してキューにメッセージを送信したりキューからのメッセージを消費したりできます。制約を受けるのは検索のみです。
- ブローカクラスタでマスターブローカを使用しない場合、クラスタに追加されているブローカによって保存された持続性の情報は、クラスタ内のほかのブローカには伝播されません。
- SSL を使用した接続サービスでは現在、自己署名サーバー証明書、つまりホスト信頼モードしかサポートしていません。
- HTTP トランスポートを使用している JMS クライアントが、`Ctrl-C` の使用などにより突然終了した場合、ブローカがクライアント接続や関連するすべてのリソースを解放するまでに、およそ 1 分かかります。

この 1 分の間にクライアントのほかのインスタンスが起動し、同じ `ClientID`、永続サブスクリプション、またはキューを使おうとした場合、そのインスタンスは「クライアント ID はすでに使用されています」の例外を受け取ります。このことは実際の問題ではなく、上記の終了処理の結果にすぎません。およそ 1 分経過後にクライアントが起動すると、すべて問題なく動作します。

管理および設定上の問題

Windows コンピュータで `CLASSPATH` に二重引用符が含まれている場合、`imqadmin` および `imqobjmgr` ユーティリティーがエラーをスローする (5060769)

回避策

エラーメッセージは無視できます。ブローカはコンシューマへのエラーの通知を正しく処理します。このエラーは、システムの信頼性には影響を与えません。

すべての Solaris および Windows スクリプトで、`-javahome` オプションの値に空白文字が含まれると動作しない (4683029)

`-javahome` オプションは `Message Queue` のコマンドおよびユーティリティーで使用し、使用する代替の Java 2 互換のランタイムを指定します。ただし、代替の Java 2 互換のランタイムへのパスには、空白文字を含めることはできません。

空白文字を含むパスの例は次のとおりです。

Windows の場合：

```
C:¥jdk 1.4
```

Solaris の場合：

```
/work/java 1.4
```

回避策

Java ランタイムを、空白文字が含まれない場所またはパスにインストールします。

Message Queue が、不要なメッセージを C 以外のロケールの syslog に出力する (6193884)

Message Queue は、ブローカが C 以外のロケールで実行されている場合、不要な出力をシステムログに送信します。

回避策

ブローカを C のロケールで実行します。

ブローカの問題

ブローカクラスタで、開始しない可能性のあるリモート接続へのメッセージをブローカがキューに入れる (4951010)

回避策

いったんその接続が開始すると、メッセージはコンシューマによって受信されます。コンシューマの接続が閉じている場合、メッセージは別のコンシューマへ再配信されます。

Windows 2000 で HTTPS createQueueConnection が例外をスローする可能性がある (4953348)

回避策

接続を再試行します。

Ctrl-C を使用してブローカをシャットダウンする場合、ストアが閉じられたあとにトランザクションがクリーンアップされることがある (4934446)

メッセージまたはトランザクションの処理中にブローカがシャットダウンされた場合、「ストアが閉じられた後に、ストアメソッドがアクセスされました。」という内容のエラーをブローカが表示することがあります。

回避策

エラーメッセージは無視できます。ブローカはコンシューマへのエラーの通知を正しく処理します。このエラーは、システムの信頼性には影響を与えません。

持続ストアがあまりにも多くの送信先を開く場合、ブローカがアクセス不可能になる (4953354)

回避策

この状態は、ブローカがシステムのオープンファイル記述子の制限に達したことが原因です。Solaris や Linux では、ulimit コマンドを使って、ファイル記述子の制限を増やします。

送信先が破棄された場合、コンシューマが孤立する (5060787)

送信先が破棄された場合、アクティブコンシューマが孤立します。いったんコンシューマが孤立すると、送信先が再作成された場合でもメッセージを受信しなくなります。

回避策

この問題には、回避策がありません。

JMSMessageID を使用したメッセージ選択が機能しない (6196233)

セレクタ「JMSMessageID = '<message_id>」を使用したメッセージ選択が機能しません。

1. メッセージをキューに送信する
2. 送信されたメッセージ - <message_id> の JMSMessageID を読み込む
3. 「JMSMessageID = '<message_id>」に設定されたセレクタを使用して、キュー上にコンシューマを作成する
メッセージが受信されません。

回避策

次のセレクタを変更します。

```
JMSMessageID = "ID:message-id-string"
```

次のように変更します。

```
JMSMessageID IN ('ID:message-id-string', 'message-id-string')
```

- Windows プラットフォームでは、バックログサイズの最大値に従って TCP/IP 上で同時に開始できるブローカへの接続の数に制限を設けています。バックログは、TCP スタック内の接続用のバッファです。同時 TCP 接続起動の数が、このバックログサイズを超えることはできません。たとえば、Windows 2000 Professional ではバックログを 5 まで、Windows 2000 Server ではバックログを 200 までに制限しています。
- ブローカのインスタンス設定ファイルを編集するには、ブローカインスタンスを少なくとも 1 回起動する必要があります。そのブローカインスタンスがはじめて起動されるまでは、config.properties ファイルが存在しないからです。プラグイン可能な持続性を使用するか、ほかの設定プロパティを設定するようにブローカを設定するには、ブローカ作成に使用するインスタンス名でブローカを一度実行して config.properties ファイルを作成します。

プラットフォーム	場所
Windows	IMQ_VARHOME¥instances¥instanceName¥props¥config.properties

config.properties ファイルが作成されたら、このファイルを編集して設定プロパティ値を追加してから、ブローカを再起動します。

- このリリースでは、フル接続のブローカクラスタのみサポートされています。つまり、クラスタ内のすべてのブローカは、そのクラスタ内のほかのブローカと相互に直接やり取りする必要があります。imqbrokerd -cluster コマンド行引数を使用してブローカを接続する場合は、そのクラスタ内のすべてのブローカが含まれていることを確認してください。

- クラスタの一部であるブローカに接続されているクライアントは、現在 QueueBrowser を使用して該当するクラスタ内のリモートブローカにあるキューを検索することはできません。クライアントが検索できるのは、直接接続されているブローカにあるキューの内容のみです。この場合でも、クライアントは、クラスタ内の任意のブローカに対してキューにメッセージを送信したりキューからのメッセージを消費したりできます。制約を受けるのは検索のみです。
- ブローカクラスタでマスターブローカを使用しない場合、クラスタに追加されているブローカによって保存された持続性の情報は、クラスタ内のほかのブローカには伝播されません。
- SSL を使用した接続サービスでは現在、ホスト信頼モードの自己署名サーバー証明書しかサポートしていません。
- HTTP トランスポートを使用している JMS クライアントが、Ctrl-C の使用などにより突然終了した場合、ブローカがクライアント接続や関連するすべてのリソースを解放するまでに、およそ 1 分かかります。

この 1 分の間にクライアントのほかのインスタンスが起動し、同じクライアント ID、永続サブスクリプション、またはキューを使おうとした場合、そのインスタンスは「クライアント ID はすでに使用されています」の例外を受け取ります。このことは実際の問題ではなく、上記の終了処理の結果にすぎません。およそ 1 分経過後にクライアントが起動すると、すべて問題なく動作します。

インストールの問題

コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」に「Sun Java Enterprise System」が表示されるコントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」の一覧に、「Message Queue」ではなく「Sun Java Enterprise System」が表示されます。

NSS および NSPR ライブラリの場所が変更されている (6271133)。

以前のリリースから変更された NSS および NSPR ライブラリの場所が、『Message Queue C Client Developer's Guide』で正しく記述されていない場合があります。これらのライブラリは C クライアントの作成に必要で、それらのライブラリの新しい場所は「share¥lib」フォルダ内にあります。

たとえば、「C:¥Sun¥share¥lib」フォルダです。

ファイル Config_MQ.txt に不正な情報が含まれる

ファイル Config_MQ.txt に不正な情報が含まれています。一部のエラーは次の項目で修正されます。

- Config Now および Config Later オプションは Message Queue では利用できません。また、インストール時に管理者パスワードを設定するオプションはありません。
- Configure Automatically オプションで、MQ ブローカ Windows サービスが自動的にインストールおよび開始されます。

- **Configure Manually** オプションで、MQ ブローカを Windows サービスとして開始することなくインストールできます。

空き容量が不十分なディスクにインストールしようとする、わかりづらいエラーメッセージが表示される。空き容量が不十分なディスクにインストールしようとする、わかりづらいエラーメッセージが表示されてインストールが失敗します。たとえば、次のようなメッセージです。
「Error: -1603 Fatal error during installation.」

このエラーメッセージが表示された場合は、十分な容量のあるディスクにインストールしてみてください。

ディレクトリ名に空白文字が含まれると MQ をインストールできない (6314103)

たとえば、C:/Program Files/Sun/MessageQueue のようなディレクトリの場合です。

回避策

名前に空白文字が含まれるディレクトリに製品をインストールしないでください。

C:¥Software¥Sun など、ディレクトリ名が 6 文字より長いと MQ をインストールできない (6314088、6392963)

たとえば、C:/Software/sun のようなディレクトリの場合です。

回避策

ドライブ文字、コロン、およびスラッシュを含め、名前が 6 文字より長いディレクトリに製品をインストールしないでください。

SSL

Message Queue C-API SSL および MQ_SSL_BROKER_IS_TRUSTED。

C-API SSL 接続を使用する場合で MQ_SSL_BROKER_IS_TRUSTED を MQ_FALSE に設定するときは、実行中のブローカの完全指定のドメイン名を持つホスト名を CN とするブローカ証明書を作成し、MQ_BROKER_HOST_PROPERTY が C-API アプリケーションと同じになるように指定する必要があります。

完全指定のドメイン名を使用しないと、エラーメッセージ SSL_ERROR_BAD_CERT_DOMAIN でブローカ証明書が拒否されます。

回避策

なし。

再配布可能ファイル

Sun Java System Message Queue 3.6 SP3 2005Q4 には、バイナリ形式で使用および自由に配布が可能な、次のファイルのセットが含まれています。

- `jms.jar`
- `imq.jar`
- `imqxm.jar`
- `fscontext.jar`
- `providerutil.jar`
- `jndi.jar`
- `ldap.jar`
- `ldapbp.jar`
- `jaas.jar`
- `jsse.jar`
- `jnet.jar`
- `jcert.jar`
- さらに、LICENSE ファイルおよび COPYRIGHT ファイルも再配布できます。

問題の報告方法とフィードバックの提供方法

Sun Java System Message Queue に関する問題を発見した場合は、次の方法のいずれかを使って Sun カスタマサポートにご連絡ください。

- Sun Software Support オンラインサービスの Web サイトをご利用ください。
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、メンテナンスプログラムおよびサポート連絡先番号だけでなく、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、および ProductTracker へのリンクがあります。

- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

テクニカルサポートスタッフが問題解決のお手伝いをいたします。カスタマサポートをご利用の際は、次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した箇所や動作への影響など、問題の具体的な説明

- マシン機種、OS バージョン、および、問題に影響すると思われるパッチやそのほかのソフトウェアなどの製品バージョン
- 問題を再現するために行なった操作に関する詳しい説明
- エラーログやコアダンプ

Sun Java System Software Forum

次のサイトでは、Sun Java System Message Queue フォーラムが利用できます。

<http://swforum.sun.com/jive/forum.jspa?forumID=24>

ご参加を歓迎いたします。

Java Technology Forum

Java Technology Forums には、関連する JMS のフォーラムがあります。

<http://forum.java.sun.com>

コメントの送信先

Sun ではマニュアルの改善に関心を払っており、お客様のコメントおよびご提案を必要としています。

コメントを送るには、<http://docs.sun.com> にアクセスして「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームにマニュアルのタイトルと Part No. を入力してください。Part No. は書籍のタイトルのページまたはマニュアルの最上部に記されており、通常、7桁または9桁の数字です。たとえば、このマニュアルのタイトルは『Sun Java System Message Queue 2005Q4 リリースノート (Microsoft Windows 版)』で、Part No. は 819-5854 です。

Sun の追加情報

次のサイトにも、Sun Java System に関する有益な情報が掲載されています。

- Message Queue に関するマニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1374.1>
- Sun Java System に関するマニュアル
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys.05q4#hic>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System ソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートと Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートとトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun 開発者向け情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun ソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。